

平成30年度 第1回 行政改革推進委員会 会議録

開催日時	平成30年7月26日（木曜日） 午後1時30分・開会 午後2時45分・閉会
開催場所	上湧別コミュニティセンター 1階会議室
出席委員等	委員 北村会長、高桑職務代理者 菊地・小林・高橋・野田・森委員
欠席委員等	松浦・宮澤委員
事務局職員	企画財政課：佐藤課長、大塚補佐、斉藤主幹、島田主任 総務課：濱本課長
議題	1. 開会 2. あいさつ 3. 確認事項 （1）会議の進め方等について 4. 議題 （1）行政改革推進実施計画書の進捗状況について （2）行政評価の実施について （3）湧別町補助金のあり方の基本方針について 5. その他 （1）次回の会議日程について 6. 閉会
会議の公開	公開
傍聴人の数	0名
提出資料	（1）第2次 湧別町行政改革大綱 実施計画の推進状況 （2）平成30年度 行政評価・外部評価対象事業一覧表 （3）湧別町補助金のあり方の基本方針について
その他	

## 1. 開 会

佐藤課長が開会を宣言し、委員の過半数以上が出席しているため、委員会の成立を確認した。

## 2. 会長あいさつ

北村会長) 暑い中、ご出席いただき、ありがとうございます。本日の議題とは関係ありませんが、西日本では、大雨による大災害が発生しています。現在、町では防災マップを作成するというので、自治会などから2名程度が参加して会議が進められるようです。できれば、この委員の中からも参加してもらえれば良いと思っています。

本日の会議は、平成30年度の外部評価を主な議題になりますので、よろしくご審議いただきたいと思っております。

## 3. 確認事項

議案審議の前に、佐藤課長から北村会長へ行政評価（外部評価）に係る諮問書を手交し、北村会長が諮問書を読み上げた。

### (1) 会議の進め方等について

議案に基づき、斉藤主幹より説明する。※質疑なし

## 4. 議 題

### (1) 行政改革推進実施計画書の進捗状況について

議案及び資料に基づき、斉藤主幹より説明する。

### 【質疑等】

○学校・保育所再編の検討、協議について（子ども支援課）

委員) 現在、開盛地区では宅地の分譲が行なわれているが、住宅建設により転入が見込まれる年齢構成などのシミュレーションが行なわれているのか。若い世代が転入してきたときに、その地区に保育所があるかないか、重要な課題と感じている。保育所がない、何もないという場所に住宅が建設されるのか、危惧している。

⇒ どういう世代がニーズを求めているかは把握していないのが実情です。第1パークタウンを造成したときには遠軽からの転入があり、その他様々な世代に定住していただいています。

学校統合の問題もあったが、地域から学校がなく魅力がない場所に住宅を建設してもらえないとの意見もありましたので、小中学校適正配置計画ではコミュニティ・スクールとして学校の運営を地域が支えること

としています。

転入のシミュレーションはしていないが、様々な方々を受け入れるようにしていきたいと考えていますし、保育所のあり方を考えていかななくてはならないと思っています。町内には民間の幼稚園があり、認定子ども園、幼保一元化の取り組みも進めなくてはならない状況になっています。

委員) 開盛保育所は休所していますが、30年度の取り組みとしては、休所している保育所の扱いに対して結論を出すということですか。

⇒ 保育所の方向性を決めるというよりは、どのような方向性にするのか地域と協議するという意味です。

○権限の移譲（企画財政課）

委員) 平成29年度から移譲を受けている「電気用品販売等の規制に関する事務」はどのような内容の事務ですか。

⇒ 商工観光課の所管事務であり、事務の内容は把握していません。後ほど、調べて回答します。

○使用料・手数料の見直し（関係課）

委員) 下水道アセットマネジメント・経営戦略策定業務の委託先はどこになりますか。

⇒ 委託する業者までは把握していません。下水道に関しては委託業務として見直していきませんが、そのほかの使用料も来年10月の消費増税に伴い見直しの検討を進めることとなります。

(2) 行政評価の実施について

①平成30年度 外部評価の実施について

②外部評価対象事業の選定について

議案及び資料に基づき、斉藤主幹より説明する。外部評価対象事業の選定は、後日、希望調書を送付して委員の希望を取りまとめ、合わせてどのような視点で評価したいのか記載することとした。

※7月27日文書発送済み 提出期限8月7日

(3) 湧別町補助金のあり方の基本方針について

議案及び資料に基づき、斉藤主幹より説明する。※質疑なし

【補足説明】

基本方針を定めた背景には、これまでの補助制度には統一した基準がなく各担当が補助制度を検討し要綱を定め予算化する流れであったが、今回、

基本的な考え方を定めました。基本方針はあくまでも基本であって政策的な制度など基本方針どおりに行かない制度もあります。補助制度の基本的な考え方として町民にも理解を求めていきたいという思いもありますので、推進委員会にはこのような視点で評価検証していただきたいと考えます。

## 5. その他

### (1) 次回会議日程について

協議の結果、9月6日（木）に開催することとした。

### (2) 公共施設再配置実行計画について

事務局) 公共施設の再配置に関する計画について、平成29年度中に委員会にご相談させていただく予定でしたが、体制が変わったこともあって作業が遅れている状況です。現在、計画の素案を取りまとめ中であり、10月ごろまでには協議できると思います。

### (3) 職員定数について

委員) 職員定数について、第2期の適正化計画に沿って定員管理が行なわれています。基本的に湧別町の人口規模で適正な人数は何人なのか、まもなく合併10年を迎えるが、どのくらいの人数で行政運営できるのか、退職者の補充であれば、職員の数は減らずに変わらないとの町の声が漏れ聞こえてきます。

このような議論することが行政改革推進委員の役割であって、大事なことだと思いますので、任期中に議論が必要と感じています。

⇒ 本町の職員定数は、類似団体と比較して同じくらいの数です。次回の委員会に、合併からの職員数の推移を示し、現状を把握していただきたいと思います。職員定数の件は、議会の委員会調査があり、資料を提出するので、同じ資料をこの委員会に示したいと思います。

委員) 職員の適正な数とは他の市町村の状況を見て適正であるかどうかを判断することになると思うが、湧別町としてどのような構想があつてまちづくりをするのか、そのことを踏まえて適正な数を判断する考え方もあると思います。

さきほど、「補助金のあり方」が説明されましたが、「あり方」という表現は、補助金を削減したい思いが感じとれるし、町民に自立して欲しいという思いがあると、私、事業者としては感じています。

委員) 現状を維持する適正化なのか、将来構想に基づいて人や資源を再配分するような適正化なのか、町の考え方を知りたいところもあります。数字的な職員定数は全国一律で考えられるでしょうが、生活のインフラを整備して、住民サービスを保って、湧別の特性を生かす、これらを加味した職員定数の適正化であって欲しいし、その数を知りたいと思います。

委員) 湧別町は行政区域が広く、職員が現場に出向くにも時間がかかる。時間はお金であるし、都市部とは一緒にならない面もあります。未来構想の中で、自分たちでどうして行くのか、そういう意味での適正な人数が必要でないかと感じています。

北村会長) 必要に応じ、資料の提示を求めることもできますので、色々な意見をいただきながら、討議を進めていきたいと思っています。

## 6. 閉 会